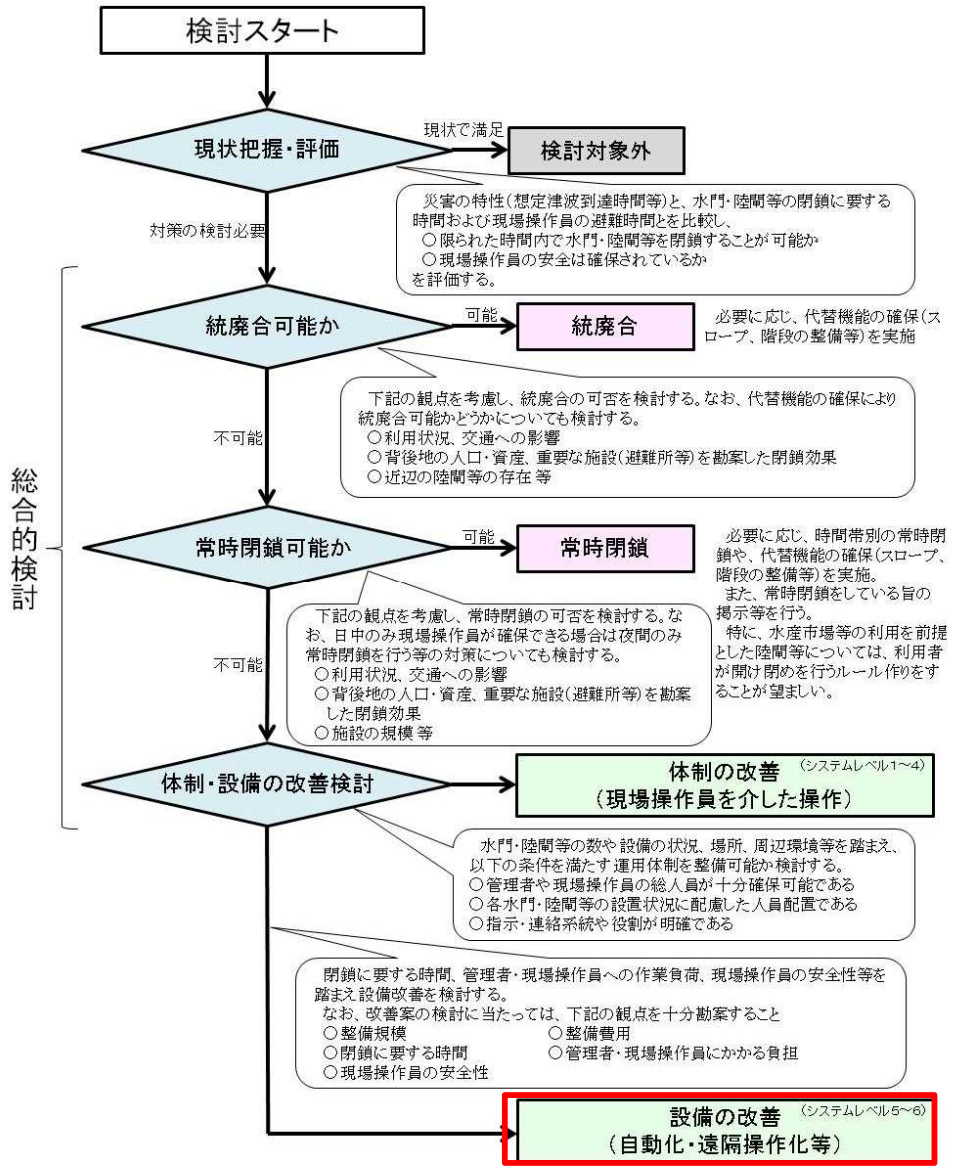


岩手県における水門・陸閘等の 操作・運用方針について

ガイドラインにおける自動化・遠隔操作化の位置づけ

● ガイドライン(ver.2.0)の総合的検討のフローにおいて、統廃合、常時閉鎖の検討を進めた後、「体制の改善」とともに「設備の改善(自動化・遠隔操作化等)」を検討するものと位置づけられている。



岩手県における水門・陸閘等の操作・運用方針について

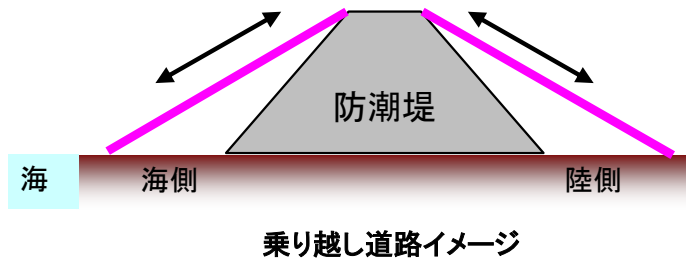
● 岩手県では、県内で48名の消防団員が犠牲になった事実を踏まえ、「操作員が現地へ向かうことのないような体制」の下、安全かつ迅速・確実に水門・陸閘等の閉鎖が行われるよう確保することとし、操作対象施設数の削減（統廃合、常時閉鎖等）、操作の遠隔化（自動閉鎖システムでの操作）を行うとの操作・運用方針が平成27年1月に示された。

1) 操作対象施設数の削減

- ・ 乗り越し道路に代替するほか、**統合や廃止**を行うことにより**陸閘数を削減**する。
- ・ **小規模水門のフラップゲート化**、利用頻度の低い**陸閘の常時閉鎖等**を図ることにより、**操作の対象施設数の削減**を行う。

2) 操作の方法

- ・ **操作の遠隔化（自動閉鎖システムでの操作）**を行う。



フラップゲート化



常時は閉鎖。使
うときだけ開放



陸閘の常時閉鎖化

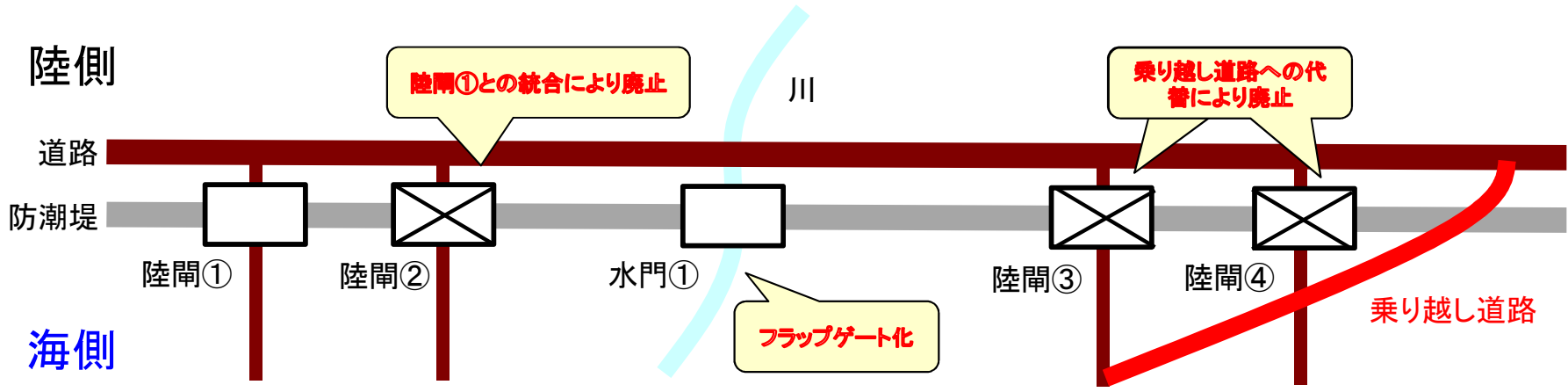
岩手県における震災後の水門・陸閘等の削減、遠隔化の取組状況

● 東日本大震災後、統廃合、常時閉鎖等による操作を要する施設の削減、遠隔化の取組が進められている。

《震災前後の操作・運用比較》

震災前					震災後 H26.12月現在		
施設数		削減	削減後 ①	新設 ^{※1)} ②	施設数(①+②)		
	遠隔				常時閉鎖 等 ^{※2)}	遠隔	
773	35	約330	約450	約80	約530	約290	約240

※1) 新設: 震災前の無堤区間の整備等、防潮堤延長の増に伴い新設となるもの
 ※2) 内訳(基): フラップゲート化(約180)、常時閉鎖(約100)、その他(約10)



岩手県における水門・陸閘等の遠隔化の方向性

● 将来の維持管理も見据えた、信頼性が高く、堅牢な自動閉鎖システムを構築し、安全かつ迅速・確実に水門・陸閘の閉鎖が行われるよう確保するとの方針の下、水門・陸閘等の遠隔化の取組の方向性が示されている。

- 1) 津波警報等を契機とした**自動閉鎖を基本**とする。
- 2) 自動閉鎖が行われなかった場合等には、**遠隔手動操作(バックアップ)**により閉鎖する。
- 3) 自動閉鎖システムが常に正常に機能するよう**必要な装置の設置及び保守体制を確立**する。
- 4) **避難に関する万全な安全対策等**を講じる。
- 5) **円滑な避難を促すための住民等への周知・啓発**を図る。
- 6) 自動閉鎖システムの**整備・管理は県が主体**となり行う。

<3>保守体制の確立のイメージ</3>



統制局(県庁等)、自動閉鎖装置(親局)

水門・陸閘等

点検状況